

## VI 今年度事業を振り返って

### フォーラム2020 ～わたしたちのおもてなし～

#### 一歩前進した今年のフォーラム

特定非営利活動法人生涯学習応援団ちば理事長 明石要一

今年度の2020ちばおもてなし隊活動の締めくくりとして2月15日に行ったフォーラム、今回もよく頑張ってくれました。ご苦労様です。

今年の特徴は自治体の事例報告があったことです。興味深い内容でした。

浦安市の報告は、昨年のラグビーワールドカップでの取り組みの経験を具体的に説明いただきました。キャンプから試合までの「おもてなし」が参考になります。自治体が本気で取り組むと効果を生むケースでした。とりわけ、担当者の意気込みが伝わってきました。とにかくフットワークがよいです。やはり「人」ですね。

また、市原市の取り組みも大変興味深い内容でした。ボランティアを通じてスポーツに親しむ、素晴らしいことです。

また、自治体に関連しての興味深い事例は、山武市にある松尾高校でした。山武市はスリランカの人が300名近く住んでいるところです。オリパラでは、スリランカの選手たちがキャンプします。そのようなことも念頭に入れた「やさしい日本語でコミュニケーション」という「おもてなし」の対応が具体的でした。自治体と高校のコラボができると大変ユニークなものになることでしょう。

もう1つの特徴は、昨年より中学生の参加が増えたことです。高校生たちに混じり、積極的に議論に加わっていました。事例報告では、「バリアフリーマップづくり」、「日本文化体験」、それから「太巻き祭り寿司でおもてなし」などで高校生と一緒に発表していただきました。

この「おもてなし」フォーラムで欠かせないのが、大学生たちの存在です。縁の下のファシリテーター役をしてくれたことです。司会からグループワークまでの段取りをしてくれました。時間を気にしながらの適切な運営に感心しました。

昨年の課題として「おもてなし」では千葉の魅力をどう発信するか、を提起していました。今年は一歩前進した気がします。例えば、「太巻き祭り寿司でおもてなし」は千葉へのこだわりが見られます。

今年、7月、8月にはオリンピック・パラリンピックを迎えます。皆さんの力をワンチームに結集して、世界の人たちに日本人の「おもてなし」を提供したいものです。